

支える

「こんにちは。」優しい声の心地よい挨拶とともに E ちゃんが私の元に初めて来てくれたのは、彼女が小5の時だった。にこにことした穏やかな笑顔、おっとりとした話し方・・・、向き合うこちらまで自然と笑顔にさせてくれる、E ちゃんはそんな何ともあたたかな雰囲気の子だった。それから卒業までの5年間、E ちゃんのあたたかさは変わることはなかった。

そして先日、晴れて聖霊高校の生徒になった彼女は、お母さんと一緒に顔を出してくれた。やさしい笑顔とあたたかな雰囲気は少しも変わっていない。「毎日とても楽しいです。先生方も本当によくして下さいます。」学校代表で警察のイベントに出席するなど充実した日々。成績も学校側から3年後の有名大学推薦の話が今から出るほど優秀で、きらきらと目が輝いている。

E ちゃんは何でもテキパキこなすというタイプの子ではない。誰よりも丁寧に丹念に取り組むが、それ故時間がかかってしまい、テストの前など準備のための時間が足りなくなって悔しい思いをしたことも何度かあった。でも、たとえ思うような結果が出なくとも、くさったり、何かや誰かのせいにして当たったり、他の楽しいことに逃げたり、誰かと比べて自分を卑下したり、自分の未来を諦めたりすることなど5年間一度もなかった。ただひたすらに目の前の課題に誠実に向き合い、何度壁にぶつかろうと、こつこつと自分のペースで乗り越えてきた。

E ちゃんが推薦をいただけるかどうかが決まる2学期期末テストの終了時、廊下で会う先生、会う先生に、「E ちゃん、テストどうだった？大丈夫だった？」と聞かれたらいい。彼女の教科担任全員が彼女のことを心配してくれていたのだ。全力で授業に向かい誰よりも心のこもった提出物を仕上げる彼女のひたむきさは、自然と周りの人たちの心も動かし、応援させていた。

誰からも愛される彼女のこの人柄はどこで形成されたのだろうか。もちろん、生まれ持ったものや偶然の環境もあるだろうが、やはり第一は家庭だろう。2つ上のお兄ちゃんの時から、本当に子どものために思われるご両親の姿勢に、私はよく心を打たれていた。子どもの成長を守るための厳しさと優しさ。子どもと一緒にゴールを考え、到達できるまで伴走される。お二人とも仕事でお疲れの中、エールだけではなく実際サポートもされ、いつも一緒に汗をかかされていた。E ちゃんも、そしてお兄ちゃんも壁を乗り越えられたのはこのご両親あってのことだ。

「絶対大丈夫でしょう！」不安でつぶれそうな時にかけてくれたお父さんの言葉。「失敗したって大丈夫！思いっきり挑戦してごらん！」お母さんの言葉。子どもの力や強さを信じ、また“どんな失敗でも受け止めてやるよ”という大きな愛情でお二人は子ども達を支えられている。